はじめに

日本では，少子高齢化や疾病構造の変化，療養の場の多様化が顕著になり，地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの推進が求められています．そして，地域におけるさまざまな取り組みを進めていくためには，多職種による保健・医療・福祉の協働が必要とされています．

このような背景を受けて，2022（令和4）年度の看護基礎教育カリキュラム改正では，対象となる人の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力を高める方策の一つとして，「在宅看護論」を「地域・在宅看護論」に名称変更し，内容を充実させることになりました．さらに，「地域・在宅看護論」を「統合分野」から「基礎看護学の次」に位置付けることで，「暮らしを知る」ことから学習するしくみになりました．

また，2024（令和6）年の診療報酬，介護報酬，障害福祉サービス等報酬のトリプル改定でも，「医療・介護・福祉の連携強化」や，制度の持続可能性を担保するための「報酬の適正化」等が改定のポイントとされ，今後ますます「地域療養を支えるケア」の必要性が高まっていくと考えられます．

そこで，第８版では，低学年から「地域での暮らし」をしっかりと学びつつ，高学年ではより専門的な地域・在宅における看護サービスを習得できるように内容を見直しました．採用校の先生方のご意見を取り入れながら，これまで以上に次の点を充実させました．

1．地域・在宅での暮らし，地域と生活と健康を「自分ごと」として考えることができる工夫
2．「地域包括ケアシステム」等の重要なワードについて，言葉の意味内容を知るだけでなく，内容を理解しイメージできるようなコラム，動画
3．低学年から高学年まで，すぐに利活用できる演習例と実践例
4．災害時等でも持続可能な訪問看護サービスや地域医療の継続に向けた対策
5．将来の地域・在宅看護を考えるための先駆的な活動やトピック

本書とともに，姉妹巻である『地域・在宅看護論②：在宅療養を支える技術』，ナーシング・グラフィカシリーズ他巻の関連領域へのリンクもご活用ください．

地域・在宅看護を取り巻く環境や必要とされるケアは，社会と連動しながら年々変化していくことと思います．地域・在宅看護論を学ぶ皆さんが，変化に柔軟に対応し，多様な看護の場で実践能力を発揮できる看護職となられるよう，本書がその学習の一助となれば幸いです．

編者一同